

# 年始まはり

三遊亭円朝

青空文庫



わたくしは、私は、昨年の十二月芝愛宕下、桜川町へ越しまして、此春は初湯に入りたといと  
存じ、つい近辺の銭湯にまゐりまして「初湯にも洗ひのこすや臍のあか」といふのと、  
 「をしげなくこぼしてはいる初湯かな」と二句やりました。板の間には余り人が居りませ  
 ぬで、四五人居りました。此湯は昔風の柘榴口ではないけれども、はいる処が一寸薄  
 暗くなつて居ります。板の間に留桶を置いて洗つてゐる年輩の人が、御近辺  
 のお心安い方と見えて言葉をかけ、甲「お目出度うございます。乙「はい、お目出  
 度うございます。甲「昨日は御年頭、りでございましたか。乙「いやもう草臥れて……  
 ……年を老つてはいけません、実にかつかりしました。甲「へー御遠方をお歩きでしたか。  
 乙「え、初め宅を出まして、それから靈南坂を上つて麻布へ出ました、麻布から高輪  
 へ出まして、それから芝へ帰つて来て、新橋を渡り、煉瓦通りをりまして、京  
 橋から日本橋から神田へ出しましてな、下谷から浅草を、つて、それから貴方、本郷  
 台へかゝりました、それから牛込へ出まして、四谷から麴町を、つて帰つてまる  
 りまして、いやもうがつかり致しました。と話をしてゐると、湯の中で、甲「どうしたい  
 昨日は。乙「どうも草臥れたつてねえサ、ひどい草臥れやうをしたぜ。甲「どうしたえ。

乙「どうしたつて無えぢやア無えか、昨日は年始りだ、朝家を出て靈南坂を上つて、麻布へ出たんだ、麻布から高輪へ出て、それから芝へ歸つて来て、新橋を渡り、煉瓦通りを、つて神田へ出て、下谷から浅草へ出たらう、それから本郷台へ上つて、牛込へ出て四谷から麴町へ出て歸つて来た、いやもうがっかりした。と云ふのを板の間にゐる前の人聞いて、「誰だ己の真似をするのは。と云つて腹を立て、其男を引摺り出して打ん殴つたところが、昨日自分の連れて歩いた車夫でございました。

(扨武陽生筆記)

# 青空文庫情報

底本：「明治の文学 第3巻 三遊亭円朝」筑摩書房

2001（平成13）年8月25日初版第1刷発行

底本の親本：「定本 円朝全集 巻の13」世界文庫

1964（昭和39）年6月発行

入力：門田裕志

校正：noriko saito

2009年6月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 年始まはり

三遊亭円朝

2020年 7月18日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>